

日経平均6500円のリード役

トヨタ自動車

企業価値検索サービス **ユーレット**
アクセス上昇 ランキング

(4月12~18日)

日経平均株価がなかなか終値ベースで9000円台に乗らない。そんな市場のイライラ感を吹き飛ばしてくれろと期待されているのが、トヨタ自動車だ。先週、急速にアクセス数が増えている。この1~3月に業績悪化で赤字に転落する見通しを示した企業が多い中にある、トヨタ株価は年

ユーレット 上場企業4000社の決算書を複数年にわたりデータベース化したサイト。売上高や営業CFなど、さまざまな角度から企業の経営を分析し、ワンクリックで他社と比較できる。経営方針の転換や経営リスクの高まりなど、市場が注目する銘柄のアクセスが増える傾向がある。

	銘柄	取引所	株価(円)
1	コスモスイニシア	ジャスダック	39
2	アーネストワン	東証1部	161
3	トヨタ自動車	東証1部	3820
4	ロプロ	東証1部	26
5	ベスト電器	東証1部	258

*17日終値。http://www.ullet.com/

初来安値(2750円)11月26日)から45%も上げている(4000円)4月10日)ことが、相場のリード役にふさわしいと受け止められているようだ。トヨタ株価が4250円になれば、日経平均株価9500円超えという見方もある。期待が大きいからだろうが、トヨタに

とってマイナスになりそうな材料にも敏感だった。トヨタの2期連続営業赤字の観測報道はもちろんだが、米GM再建の行方に絡むニュースへの関心が強い。

破産法11条適用申請の可能性とか、シボレーなど優良ブランドだけを残す新GM構想に加えて、米政府による480億ドル(約4兆8000億

円)の債務の株式化指示、GM向け債権保証を米政府に申請する日本の部品メーカーの動向など株価に直結しそうな話題が投資家にとって切実だったようだ。GM問題はこれから大詰めを迎えるため、引き続きトヨタに注目が集まる。